

*キリストはどこから来られたか。神殿で公に話しておられるイエスは果たしてメシア(=キリスト)なのだろうかと人々は不審に思った。この人はガリラヤのナザレ出身で、父母も兄弟も知っている、キリストであるはずがないというのである。また、キリストは突然不思議な方法で現れるという認識があった。「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。」(ダニエル7:13)一方、キリストはベツレヘムでダビデの家系から生まれ、その王国がとこしえまでも続くと記されている。(ミカ5:2、Ⅱサムエル7:12以下参照)しかし、大方のイスラエルの人たちのキリスト像はイスラエルを外国の勢力から救う王のイメージであった。

主イエスは「わたしは天から下ってきたパンです」と言われた。「天」とは神がおられるところであり、「地」は神が造られたものが存在するところである。それゆえその天から下って来られたキリストは神の御子である。イエスは言われる。あなたがたは人としてのわたしを知っている。しかし、わたしは天におられる神から出た。それも自分から来たのではなく、父なる神から遣わされたのだと。父なる神は私たちにあたえるお土産をイエスに持たせた。それは天の愛と喜びである。神が私たちに与えてくださる愛と喜びがどれほど素晴らしいかを示すことであった。「遣わす」には必ず目的と使命がある。それは十字架という重い、大切な使命であったが、神の究極の愛の現れであった。

*キリストはどこへ行かれるか。「そこでイエスは言われた。「まだしばらくの間、わたしはあなたがたといっしょにいて、それから、わたしを遣わした方のもとに行きます。」(ヨハネ7:33)『あなたがたはわたしを捜すが、見つからない』、また『わたしのいる所にあなたがたは来ることができない』とあの人が言ったこのことばは、どういう意味だろうか。」(7:36)キリストは、遣わされた方のもとに帰る、捜しても見つからないと言われたが、十字架の後の復活と昇天のことを指している。

わたしを信じない人は、わたしのいるところ、すなわち天の御国に来ることができない。わたしを信じて従う者は誰でも私の行くところに来ることができる、と言われる。「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

(ヨハネ14:6) イエス・キリストを信じればいずれ天の愛と喜びのすべてを知ることができるが、この地上においても一部を味わうことができる。信じる者になりたい。